



初めてのお盆

お盆は、「先祖様の魂があつた世から帰ってくる。年に一度の大切な時期です。関東などの一部地域を除いて、8月13日から16日までの四日間をお盆期間としています。中でも、亡くなられてから初めて迎えるお盆は「初盆（はつぼん、ういぼん）」と呼ばれ、「新盆（あらぼん、にいぼん）」と呼び、通常のお盆よりも丁寧に行われます。普通のお盆とは何が違う？というわけで、今回は初盆についてお話しします。

初盆は、故人の四十九日が過ぎた後、初めて迎えるお盆のことをいいます。四十九日前にお盆の時期が重なった場合は、次の年のお盆に初盆を迎えます。故人が亡くなられてから初めてあつた世から帰ってくる特別な日なので、親族だけでなく、故人と親しかった友人も招いて盛大に法要を行うことが多いようです。



④ コチョウラン入お盆アレンジメント ¥7,700
大きな顔が揃っているようなコチョウランが印象的なアレンジメントです。



③ お盆のさわやかアレンジメント ¥4,400
白を基調にリンドウなどのブルーや夏らしいグリーンを取り入れた爽やかなアレンジメントです。

初盆の流れは、基本的には通常のお盆と変わりはありませんが、お盆の入りの日には灯すのは両付きの盆提灯ではなく、初盆用の白提灯です。白提灯には、亡くなってまだ日が浅い故人を清浄無垢な気持ちでお迎えするという意味が込められています。次の年からは通常の盆提灯を使用するので、1回限りの役目を果たした白提灯は、お盆の明けの日に送り火として燃やしたり、菩提寺でお焚き上げしてもらったりします。

お供え花についても、白一色や白を基調に淡い青やグリーンでまとめた、控えめな色合いのものがよく選ばれます。最近では、故人が好きだった花を、ということでお色味も特にこだわらない方も多のですが、お供え花を贈る際は失礼のないように事前に確認しておくのが最適かと思えます。また、近年の状況下では、まだ直接訪問するのは難しい方も多く、盆入り前に届くように手配をするのが望ましいとされています。こんな状況だからこそ、しっかりと個々の気持ちを伝えたいものですね。

花かがみ

HANA-KAGAMI

発行人/小笠原 馨 発行所/名古屋園芸株式会社
〒460-0005 名古屋市中区東横2-18-13 tel. 052-631-8701
http://nagoyaengei.co.jp/

21 8

名古屋園芸

Branch (枝) で楽しむ



青林風掬水葉
紅流星管弁交獅子牡丹

変り咲き朝顔

青林風掬水葉（葉の色と形状の説明）
紅流星管弁交獅子牡丹（花色と花弁の形状と花形）
明治四四年（一九一一年）高輪其堂 画
今年当店園芸栽培中に流星管弁系があり、運良く咲きましたら店頭にて展示させていただきます。 亮軒記

information

『花の講座』2021年後期 パンフレットが出来上がりました

10月から『花の講座』2021年後期の新カリキュラムが始まります。フラワーアレンジメント・ガーデニング合わせて36の多彩な講座をご用意いたしました。

後期は特に、クリスマス・お正月と季節の行事に合わせたお花を紹介する講座が毎年人気を集めています。初めてさんでも安心してお楽しみいただけるよう、スタッフが講師を務めてゆっくり順番にお話ししますので、ぜひお気軽にご参加ください。

詳細は、店頭で配布するパンフレット、名古屋園芸HPからもご確認ください。人気講座はお席が埋まるのも早いので、早めのお問い合わせをお勧めします。

季節の花々との生活を、ぜひ『花の講座』で始めてみませんか？

※新型コロナウイルス感染症対策のために愛知県に緊急事態宣言が発出された場合は、その間の講座はすべて休講となります。

※今開催中の講座の内容などは、公式のInstagramでもご覧いただけます。

◇お申し込みは
花の講座専用電話 TEL: 052-937-3391
受付時間 月～金曜日 10:00～17:00
Webでのお申し込みは24時間OK!



花の博物館 第307回

「(仮)朝顔垣と洗い張りをする女性達」

歌川国安
文政3天保頃刊（一八一五～一八四二）
小笠原左衛門射野軒

文政3天保頃には、江戸と上方双方で朝顔作りが大流行した。浮世絵師はこうした流行を見逃すはずもなく、多くの作品に朝顔を描き込んでいる。当作品もその一例である。

さて、朝顔の前で「洗い張り」作業を行っている女性達の姿は、現在ではほとんど見かけなくなり、若い名古屋園芸の社員の人達に尋ねたところ、まったく知らないとのことである。従って本図の「洗い張り」作業の手順が描かれている様子を説明しておく。

「洗い張り」とは、和服が汚れたり糊い直したりする場合、縫い糸を全部切りはずし、布状に戻し、洗濯し糊づけして、新布に近い状態にする作業である。本図は右から順にその作業を行っている。

一、たらいで洗濯している。（右紙）
二、浅い桶で糊づけしている。（右紙）
三、横に吊るした布に伸子張りし乾燥させている。（中紙）

四、立掛けた張り板に小さく切られた布を張り付けて乾燥させる。（中紙）
五、伸子張りや板張りで乾かした布をはがして持ち帰る様子。（左紙）

こうした作業手順が表現されている。私は戦前母親が盛夏の頃毎年こうした作業を行っていた姿が今でも思い出す夏の風物詩の一つで、なつかしく思い出される。

お盆が過ぎると…秋です



① 一番奥にあるパープルファウンテングラスなどのグラス類のカラーリーフがはいると秋の感じがグッとちかづきます。

お盆を過ぎると、名古屋園芸も秋の花々が顔を出しはじめます。夏の暑さが続きつつも、お盆が明けると徐々に秋の空気が感じられるようになり、秋の花がもどかしいこともあり、秋の花が店頭には増えてくるのですが、秋の花は花はどどうでしょう。あまりの暑さには花数が少なくなつたものが多いのではないのでしょうか。夏の花とはいえ、名古屋の猛暑から身を守ろうと植物自体が花をつけないようにすることがあります。（ハ イビスカスなど典型的です）。

8月が過ぎ9月、10月と気温が落ちていくと今度は夏の花が見事に咲き誇ります。年々、花の時期がずれてきてい

る傾向が見受けられます。少し元気がないなど思われる夏の花ももう少し様子を見てあげましょう。暑さが落ち着くと見事な復活劇がまっているかもしれません。

お盆明けには夏の花を養生しつつ秋の花も準備を始めていくのがちょうどいいバランスだと思います。ゴキキトウガラシやジニア、センニチコウなど寄せ植えでも楽しめるもの。もう少し秋が深くなつてからはなりますが、リンドウやシユウメイギクなど日本の秋を楽しむ植物も多く出回ります。洋風にも和風にも多種多様に楽しめるのが秋の植物の良いところ。

パンジー、ビオラまではもう少し先になります。（10月後半）この季節しか味わえない植物が多く出るのでぜひ楽しんでいただきたいたい季節でもあります。色合いも秋を感じるオータムカラー、アンティークカラーのものが増えてきます。季節の変化を色で感じるといってもステキなものです。

季節はもうすぐ秋。ご家庭にも少しずつ秋の空気を取り入れてみてはいかがでしょうか。



② トウガラシ、ケイトウ、ジニアなどワインカラーのグラデーションが秋の風情を演出してくれます。